令和５年度国立那須甲子青少年自然の家の家教育事業

なすかしの森ボランティア養成研修　報告書

１．趣旨

国立青少年教育振興機構が提供する法人ボランティア養成カリキュラムに基づいて実施し、青少年教育施設で活動できるボランティアを育成する。

２．期日

令和５年５月 13 日（土）～14 日（日）

３．会場

国立那須甲子青少年自然の家（福島県西白河郡西郷村大字真船字村火 6-1）

４．参加者

13 名（大学生 12 名、高等専門学校生１名）

５．講師

原　義彦 氏（東北学院大学）
三浦　一将 氏（大塚製薬工場）

６．主な活動内容

（１）青少年教育（講義）

青少年教育の講義の様子

東北学院大学の原義彦氏を講師にお招きし、現代の青少年の様相や体験活動の効果や意義について講義をいただいた。講義の中では、実際に青少年に対して提供したい体験活動をグループで話し合う場面があり、参加者は過去の経験や大学等での学びをもとに、体験活動を通して期待する成長や、実施の際の留意点について話し合った。参加者からは「自分が今まで知らなかった青少年の現状や課題について知ることができ、青少年教育の一環であるキャンプなどの事業の重要性がよく分かった」などの感想が寄せられた。

（２）ボランティア活動の技術（演習）

ボランティア活動の技術の演習の様子

キャンプファイヤーの基礎的事項を学ぶとともに、実際にキャンプファイヤーを実施した。演習では、キャンプファイヤーの基本的な構成や教育的意義、安全上の留意点等について説明を受けたのち、実際に第一部と第三部をモデルの進行案をもとに実施した。また、第二部では先輩ボランティアがレク・ゲームを指導した。参加者からは「キャンプファイヤーには深い教育的意義があるということを、身をもって体験できてよかった」などの感想が寄せられた。

（３）安全管理（講義・演習）

安全管理の講義の様子

前半は胸骨圧迫やAEDの使い方など、普通救命講習に準じた演習を実施し、後半は、大塚製薬工場の三浦一将氏をお迎えして、「熱中症対策講座」を行った。前半の演習では、傷病者の発見から救急車到着までの一次救命処置の一連の流れについて、実際に人形やAEDトレーナーを用いて実技を行った。後半の講義では、熱中症や脱水症状が起こるメカニズムや、適切な水分補給のあり方について学んだ。参加者からは「救命のための応急手当、AEDの使い方について改めて確認できた。熱中症・脱水症の予防や処置方法を知ることができた」などの感想が寄せられた。

７．事業の成果と課題

（１）成果

・　参加者数が例年よりも少なかったこともあり、参加者同士や参加者と先輩ボランティアとのコミュニケーションが活発であった。今後のボランティア活動に対する動機づけとなったと推察される。

・　野外炊事やキャンプファイヤーなど、今後の教育事業で必要とされる基礎的な知識や技能の習得に主眼を置いたことで、施設・設備の使用方法の理解が深まったとともに、活動プログラムの指導補助に必要なスキルを身につけることができた。

（２）課題

・　定員30名に対し、申し込みが14名、参加者が13名であった。機構本部の教育事業方針にて、41名以上の法人ボランティア養成が目標値として定められているため、前年度中に各大学と参加者募集について調整するなど、計画的に広報を進めたい。

・　プログラム構成の都合上、開会式直後に講義があり、そのまま演習（野外炊事）となった。初めて会う者同士がすぐに講義内でディスカッションを行ったり、演習で一緒に活動したりすることに抵抗を感じる参加者もいると思われるため、アイスブレイク等の時間を確保できるようなプログラム構成としたい。

【作成】事業推進係員　杉本守